

かいじ クラブ

を追って

内野の要

「七番ショート・平井剛君」

平井君が、産声を上げて早や、十七年、ただ今かいじクラブの名ショートとして活躍中です。

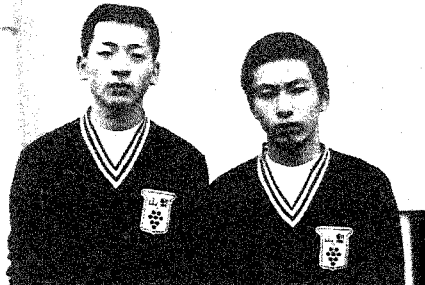
彼は、小学校時代野球少年として大活躍しました。中学へ進むとメ

キメキと頭角をあらわし、国体での活躍を夢みてかいじクラブへ入部しました。

「辛く、長

い猛練習に、何度も何度もくじけそうになりました。

でも、神奈川県を破ってわかつり国体出場が決った瞬間、やめないうでよかった、と思ひました。今は毎日が楽しいです。」非常に



(右平井君・左西室君)

ただ一人、地理的な悪条件も克服し、猛練習に耐えてきただけに土壇場に強い選手です。今までを振り返りながら西

はつきりした口調で話してくれた平井君の誠実さがとても印象的でした。来年のかいじ国体での平井君の活躍を期待します。

「名サイド」 「二番サード・西室克巳君」

かいじクラブでただ一人、大月市から通う西室君は、猿橋中学校の出身です。中学時代は外野手としてその強肩ぶりを発揮、今は、かいじクラブの三塁手として活躍しています。

西室君は、ライン際の難しい打球もなんなく処理するなど守備には定評があります。打順は二番、持ち前の俊足とミートに心がけたチームバツティングには、監督の信頼も絶大です。

入部当時は大月から通う友だちもいましたが、結局かいじに残ったのは西室君の猛練習に耐えてきただけに土壇場に強い選手です。今までを振り返りながら西

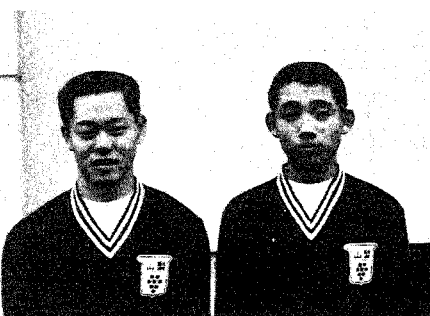
室君は「友だちが一人、また一人とかいじを辞めてくのを、何度自分も辞めようかと思つたかわかりません。でも、続けてきてよかったと思います。」と話してくれました。

俊足外野手

「八番レフト・高部裕司君」

高部君は、「一人兄弟の長男、中学の先生と相談してかいじクラブへ入部しました。おとなしそ

うな顔の高部君も、中学時代は二塁手として難しいポジションで大活躍、かいじでは俊足をかわれレフトを守っています。バットを短かく持つて当てるバツティン



(右高部君・左伊藤君)

グは、なかなかしぶとく好球はのがしません。わかつり国体出場を決めた時の感想について高部君は「毎日の猛練習は、ほんとうに辛かったです。やめたいって、ほんと、何度も思ひました。でも、試合が終つて、国体に

出場できるんだ、と思つた時、うれしい、という気持と、一番感じたのが、野球やつてきてよかった、ほんとによかったと思ひました。かいじ国体めざしてガンバリます。」と話してくれました。

強肩外野手

「八番レフト・伊藤功一君」

「広報の取材にきました。」「今度、僕広報にのるんですか、ヤッター！」こんな会話から始まつた伊藤君の取材、とても真面目な、そしててれやで明るいと言つた印象は取材が終るまで変わりました。

伊藤君は、三人兄弟(姉二人)の長男です。小さいころから野球狂で、一中野球部ではレフトを守り、フライを追う感、バツゲン、かいじでも中学時代と同じレフトを守っています。バツティングは、シャープな振りで右方向に打つのが得意、それだけに貴重なバツターです。

監督や両親について伊藤君

いざ出陣

わかつり国体壮行式

去る十月十八日(金)「わかつり国体」(鳥取県)に本市から出場する国体選手及び役員の壮行式が庁舎玄関前において行われました。

壮行式には、軟式野球少年の部に出場するかいじクラブの選手を初め、相撲(青年男子の部・少年男子の部・谷村工高)・ウエイトリフティング(52kg級・谷村工高)の選手及びその関係者らが集まり、市長の「かいじ国体の前哨戦でもある今国体で力いっぱいがんばってきて下さい。」との激励のあいさつがあり、それを受け、かいじクラブの佐藤主将が、選手を代表して決意文を力強く読み上げました。選手は、集まつた人たちの拍手に見送られ一路鳥取へと向いました。